



# 学校だより「杜の子」



市川三郷町立  
上野小学校

発行者（文責）  
校長 保坂 久信

## 「1学期の振り返り」

### ～終業式の校長の言葉より～



おはようございます。1学期の終業式です。今年の上野小が始まって、3か月と少し、経ちました。明日からは、夏休みです。4月、始業式で、たくさん学んで、新しく生まれ変わって、変身しましょうと話しました。どうでしたか？ いろんなことができるようになりましたか？ 校長先生はね、見ましたよ。たくさんの方が、学びによる変身をしている場面を、何回もね。すばらしいと思いました。でも、この変身はみなさん1人の成果ではありません。先生、友達、家族、みんなのおかげで、変身の学びが成立したはずですよ。ぜひ、今日は1学期の感謝を、「ありがとう」を、たくさんの人に贈ってください。お願いします。



さて、4月は、始業式、新任式、入学式、1年生を迎える会、自転車教室、家庭訪問がありました。入学した1年生のために、上級生のみんなが、持っている優しさを形にしてみせてくれました。ありがとう。

5月は、授業参観、児童総会、2年生の町探検、4年生の社会科見学がありました。児童総会を覚えていますか。上野小学校を楽しい学校にするために、みんなで決めたことを、今、みんなで大切に、守っていますか。今のみんなは、「なかよし上野小」ですか。「カッコいい上野小」ですか。「まなびがたくさんの上野小」ですか。

6月は、修学旅行、プール開き、3年生の歌舞伎公園見学、5年生の林間学校がありました。みなさんの活動が大きく外に広がった6月でした。

そして、7月。4月からの学びを振り返りながら、今日の終業式を迎えました。よく、がんばりました。夏休みを無事に過ごし、2学期は、1学期よりも、もっと、もっと、もっと頑張ろうって気持ちをつくって、はじめられるといいですね。そのための夏休みが、みなさんにとって、楽しくてたまらないものとなるように、祈っています。以上で、校長先生の話の終わります。

\*\*\*\*\*

### ～児童代表の言葉より～

#### 「1学期の反省と2学期に向けて」

6年 田中 太陽



ぼくは、今年、たてわり班の班長になりました。1回目のたてわり班集会では、班のみんなに楽しんでもらえるように準備をがんばりました。本番

では、みんなの前で進行をするのがきんちょうしたけれど、みんなが楽しんでくれてうれしかったです。2学期には運動会もあるので、班のみんなと仲を深めて力を合わせてがんばりたいです。

学習面では、とくに算数をがんばりました。授業中にわからないところは進んで友達や先生に聞くようにしました。5年生のころは苦手だったところができるようになってきました。特に分数の計算が速くできるようになってきました。前は、文章題を読んで数直線をかくのができなかったけど、6年生になって自分でできるようになってきてうれしいです。これからも集中してがんばりたいです。

1学期に1番楽しかったことは修学旅行です。3日間全部が最高の思い出です。その中でも特に心にのこっているのは、鎌倉さんさくです。銭洗弁財天でお金を洗いました。洗った硬貨が少しかいになってすごいと思いました。洗った硬貨を使うとご利益があるの

で1日目と2日目で使いました。佐助稲荷神社ですごくと思ったのは、たくさんの鳥居です。上まで登るとたくさんの小さい狐にびっくりしました。小町通りで抹茶アイスを食べたりお土産の店で自分用にキーホルダーを買ったりしました。同じ班の仲間と協力してなかよく見学できてよかったです。

ぼくは、修学旅行で、みんなと協力する力がのびました。2学期はその力を運動会の取り組みにいかしていきたいです。

### 1 学期の子供たち

1 学期、71 日間の授業日の中で、ぐんぐん伸びている杜の子たちです。上野地域のみなさまの温かい配慮をいただきながら、上野小学校の教育活動が滞りなく行えていることに感謝いたします。

#### 1 年生



#### 2 年生



#### 3 年生



#### 4 年生



#### 5 年生



#### 6 年生



### 「伸びよ 杜の子」～おもうこと～

今年も8月15日がやってきました。平和の尊さを改めて、胸に刻みたいと思います。上野の子供たちの無邪気な笑顔を当たり前に見ることができるよう日々、感謝したいと思います。



さて、8月6日、広島平和記念式典で、こども代表の2人は「平和への誓い」として、こんなことを語りました。「平和とは、誰かから与えられるものではなく、世界中の人々で創りあげるものです。こどもである私たちも、その一員として平和への一歩を踏み出します。」

力強い宣言でした。その一員として生きようという、生き方宣言の決意に頭が下がります。今、大人がつくり、動かしている現実世界が、平和であるとはいい難いことが、残念でなりません。

かつて、ジョン・レノンは「Imagine（想像してごらん）」と歌い、忌野清志郎は「自分の頭で考えなきゃダメさ」と語りかけました。ヒロシマの6年生やアーティストが伝えているのは、平和とは他力本願ではなく、私たち一人一人が自ら考え、行動して築くものだということです。

あれから81年が経過しました。折に触れて、私たちは平和のバトンつなぎ方を子供たちと考える機会を持ち続けなければなりません。上野の子供たちには、ずっと「大きくなったらねえ…」と、目を輝かせて未来を語ってほしいと思います。

